地域

街道から地域を考える

～心の桃源郷を求めて～

とうほく街道会議
事務局長
島谷　留美子

とうほく街道会議　誕生！

東北からこんにちは！　私の住む仙台市は、江戸日本橋から福島を通り青森県津軽半島まで続く日本一長い奥州街道のほぼ中間に位置しています。東北には、奥州街道の他にもたくさんの街道があり、私はそういう地域で生活していたにもかかわらず、これまで街道にはあまり関心を持たずにいました。そんな私が街道に関わることになったきっかけは、平成十六年十月に開催された「全国街道交流会議第三回全国大会」でした。この大会は、斎藤茂吉のふるさとであり、温泉でも有名な山形県上山市の「上山まちづくり塾」の皆さんが、羽州街道や今も受け継がれている楢下宿をはじめとする宿場の魅力をまちづくりに活かそうと誘致をはかり、実現にこぎつけました。このとき、私は、上山を度々訪問して、議論の輪の中に入れていただいたことで、すっかり街道に魅せられてしまいました。

全国大会当日は、各地で街道をテーマに地域づくりを実践している八百名の方が集まり、すごい熱気で盛り上がり、皆さんのパワフルな活動に大いに刺激を受けました。このとき、様々な地域の人達が、街道を題材にして集まり交流することはとても意義のあることだと実感したのです。大会の最後に、出席者の中から「ぜひ、東北各地で街道を活用して地域づくりに取り組んでいる個人や団体が交流を深め、連携するためにプラットホームの機能を備えた組織を作ろう！」という声が上がりました。その後、たくさんの熱心な人達が検討を重ね、平成十七年三月に「とうほく街道会議」が誕生しました。

同年十一月には、「菅江真澄の足跡から新たな街道の歴史を紡ぐ」をテーマに秋田市に於いて総会と交流会を開催しました。初めての取り組みではありましたが、全国から三百六十名の方にご参加いただき、二日間にわたり基調講演、街道談義、街道探訪会を開催しました。

街道というフィルターを透すと景色も変わる

「とうほく街道会議」の事務局を担当することになった私は、とにかく早く街道のことを勉強しなければ・・・、と必死でした。図書館に通い街道に係わる本を探したり、インターネットを利用して情報収集をしたりの毎日。また、街道に出向き、実際に歩いたり地元の方から街道の歴史を教えていただいたりしました。そうしてみると不思議なことに、街道というフィルターを透した途端に、普段見慣れた景色がちょっと違って見えたり、昔の人の行き交う姿が浮かんでくるような気がしたのです。特に、東北の二大街道である奥州街道と羽州街道が分岐する福島県桑折町を訪れ、その分岐点に立った時、このふたつの道の先にはどんな街があり、そこで人々はどんな暮らしをしていたのだろうか、そう思うと何かジーンと胸が熱くなりました。きっと、古くからここを

とうほく街道会議 事務局
〒980-0021
仙台市青葉区中央 2-9-1
河西ビル
㈱東北地域環境研究室内
TEL 022-212-1105
FAX 022-212-1106

通る人は、私と同じように立ち止まり、道の向こうにつながる地域に思いを寄せ旅立って行ったに違いありません。

東北の街道を旅した先人たち

東北の街道を語る時、忘れてはならない人たちがいます。伊賀上野で生まれた松尾芭蕉は、元禄二年（一六八九）に江戸を出発、約五ヶ月間をかけて白河の関を越えて平泉、山寺、最上川、出羽三山、酒田から金沢、大垣まで旅をして「おくのほそ道」を著しました。菅江真澄は、天明三年（一七八三）に故郷三河を出発し、信濃から越後、湯沢に入り東北と北海道を歩き、その後秋田県内に約二十九年間滞在し「菅江真澄遊覧記」等を残しました。そして、英国ヨークシャー生まれのイザベラ・バード女史は、明治十一年（一八七八）に東京を出発、日光、新潟、東北をめぐり、さらに北海道にわたり「日本奥地紀行」を著しました。この他、吉田松陰、古川古松軒等歴史に名を残した多くの人たちが東北を訪れ、風景や歴史、文化に接し、その素晴らしさを実感し、後世の我々に貴重な示唆を与えてくれ、私たちの自信につながっています。

心の桃源郷を求めて

かつて、街道は、地域と地域、人と人をつなぐうえで大きな役割を果たしてきました。

今も、往時をしのばせる貴重な財産として地域の人達から大切にされています。街道は、過去・現在・未来をつなぎ、さらに心と心をつなぐ「心の道」でもあります。

街道をみるとき、ともすれば、単に人が歩き、物を運ぶ道とだけ考えたりするものですが、忘れてならないことは、海路も空路も水路も線路も、電気・通信網に至るまで、つなぐ機能を備えたという意味では「現代の街道」と考えることができるのではないかと思います。

私は今、イザベラ・バードの「日本奥地紀行」を鞄に入れ、何度も何度も読み返しながら、バードとともに東北を歩いています。そして、新しい視点で東北の再発見をしてみたいと考えています。彼女は、山形県米沢盆地を訪れた時、あまりの美しさに、この地を「東洋のアルカディア（桃源郷）」と讃えました。東北には、この米沢をはじめとして魅力に溢れたいくつもの素晴らしい地域があります。

皆さん、東北の街道を歩いて、自分にとっての桃源郷を探してみませんか。

人・夢・

とうほく街道会議交流会・秋田大会

奥州街道と羽州街道の分岐点（福島県桑折町）

イザベラ・バードが眺めた蔵王

二井宿ハイク・吉田松陰の道を歩く

http://www.tohoku-kaido.com/